

仕事に疲れたら映画を

この欄では経済やビジネスに関する洋書と和書を対比して話題を紹介してきた。たまには、ビジネスから離れるのも必要だ。今回は日ごろ忙しいエグゼクティブの息抜きに映画の本を取り上げる。仕事に疲れたら二時間程度空いた時間を見つけ、映画館に駆け込んでみよう。それが無理なら過去の名作を映画の本を手掛かりに近くのビデオショップで借りてみよう。浮世の憂さを忘れ、映画の主人公になりきってみる。そして想像の世界に遊べば、息抜きとなり気分転換ができる。

映画の本をよく買うからか、ある日①の案内がアマゾンからメールで送られた。知らない著者だったが、題名と値段の安さにひかれて注文した。映画ファンには楽しく読める軽い本だ。著者の本職は売れない探偵小説作家のようだ。アメリカ映画の佳作を、自分の人生と結び付け、簡潔な文章で一つの映画に二ページ程度で完結する批評集だ。この中から皆さんにも見てほしい二つの映画の評を紹介する。

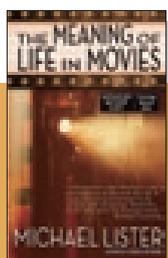
著者は映画狂らしくヒッチコックの名作「Vertigo」(邦題「めまい」)一九五五年、デジタル復刻版二〇〇〇

年)を三〇回も見たとして、最高傑作と激賞する。ジェームズ・スチュワート扮する「めまい」を持病に持つ中年独身の元警部は、私立探偵として、キム・ノバク扮する金髪美人の知人の奥さんの行動の監視を依頼される。美人の破滅的で幻覚的な行動を監視するうちに、自ら破滅的な愛の幻想に陥る様を、ヒッチコックは完璧な映像で描写する。最近デジタル復刻されたビデオは、細部にまで手が入り、芸術的に美しいフィルムとなっている。

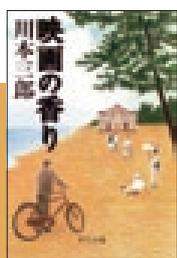
二つ目はジョージ・クルーニーが孤獨な独身中年サラリーマンを名演した、「Up in the Air」(邦題「マイレージ、マイライフ」二〇〇九年)。主人公は年三二二日アメリカ中を飛び回るリストラ請負のプロフェッショナル。アメリカでは、従業員個人々人へのリストラの通告を自社の人間でやらずに、専門家にアウトソースする。首切りの仕事は多く、旅先で知り合う人と束の間の友情や愛情も結んでいるように見える。目標は一千万マイルのマイレージ達成。ところが、目標を達成しても、表面的な関係で世界とつながっているだけなのだ。本質的に世界と切り離された主人公の現実を、映画はユーモアを交えて描写する。仕事を愛し会社とつながっていると信じていた人も、ある

日突然首切りプロとの面接でそのつながりを切られる。首切りを行うプロ自身がまたつながりを切られた人間なのだ。見どころはアメリカのビジネス・プロフェッショナルの孤独の本質を理解する監督の優しい眼差しだ。

日本で同じような優しい眼差しで普通見逃すような小品の佳作映画を語り続けるのは、この人川本三郎を置いてない。それは、自身が若くしてサラリーマン社会からドロップアウトし、長く市井の評論家として生きているからなのかもしれない。著者が就職した大手新聞社のある事件がきっかけで辞めざるを得なくなった事情は、妻夫木聡主演で昨年映画化された(「マイバックページ」)。ここでは私が手元に置き、時々読み返す②を紹介する。そこでは著者のいうちよつと変わった映画の数々、「病院で死ぬこと」のような日本映画、「偽夢人生」のようなアジア映画、そして「仕立て屋の恋」のようなフランス映画、「ファーゴ」のようなアメリカ映画が取り上げられる。市井に普通の生活を生きる人々がちよつとした出来事や事件に巻き込まれる。この人の映画評には、そのような登場人物を確かな目で優しく描写する眼差しが一貫している。紹介された映画をビデオで借りて見てみようかという気になる。



① The Meaning of Life in Movies
Michael Lister
Pulpwood Press, 2012



② 映画の香り
川本三郎
中公文庫
2002年



めまい [DVD]
ユニバーサル・ピクチャーズ・ジャパン / 2005年



マイレージ、マイライフ [DVD]
角川映画 / 2010年